

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和4年2月1日

事業所名 こだま

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			プレイルームやホールなど活動ができるよう広いスペースを設けています。	
	2 職員の配置数は適切である	○			基準以上の配置をしており活動や行事に応じて職員数を増やしています。	
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○			事業所内は全てバリアフリーとなっています。	
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			職員全員で目標設定と振り返りを行い、各業務の方針を決定しています。	定期的に会議時間を設けたり、毎日のミーティングで、職員の意見交換や共通理解を図っています。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			保護者等向けの評価表について、忸度なくご記入いただきやすい環境で実施しています。保護者等に忌憚ないご意見をいただけるよう玄関に意見箱を設置しています。	保護者の意向や評価を真摯に受け止め、改善すべき点について具体的に確認し、共通理解のもと業務改善に努めてまいります。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			評価結果を文書で配付するとともに、法人ホームページで随時公開しています。	前年度等の評価と比較し、改善に繋がっていたか検証し、不足している部分の改善に努めてまいります。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			○		第三者による外部評価は行っていません。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			福祉職員の為のWEB研修システムに登録し、スキルアップの機会を設けています。人材育成ガイドラインを作成し、計画的な職員育成をおこなっています。オンラインによる受講環境が整えられています。	職員の資質向上のために整えられた環境が活用され、よりよい支援につながるよう努めてまいります。
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			子どもの行動を日々観察し、保護者との面談を定期的に行うことで、発達段階に合わせたニーズと課題を踏まえ、個別支援計画を作成しています。	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			標準化されたアセスメントを参考に事業所独自のアセスメントツールを使用し、行動特性や発達にに応じて把握できるようにしています。	再アセスメントを取りながら、本児を十分に理解し発達段階に合った支援を提供してまいります。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	○			一年を通しての行事計画や毎月の活動内容についても職員間で話し合いながら決定しています。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			計画的に準備できるよう年間計画を作成し、毎月の活動予定の中にも、運動や調理活動、創作活動等の様々な体験の機会を設けています。	季節の行事を通して一年間を感じられるプログラムを計画したり、定期的な地域ボランティアとの交流等も計画してまいります。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			発達ニーズに応じて個別の課題を設定し行っています。ごほうび表を作り、個別に課題の取り組みをしています。	学年や発達段階に応じてさらに個別のニーズに合わせてきめ細やかな対応が必要だと考えます。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			個別活動、集団活動それぞれにおける各児童の課題を抽出し、個別支援計画を作成しています。	今、求めているものや求められているものに着眼し、総合的な広い視点を大切に職員間で話し合いを継続し、計画を作成してまいります。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			毎日打ち合わせを行い、送迎や活動内容の役割分担の確認や児童の支援についての引継ぎ等を確認しています。	さまざまな状況下で、報連相を怠らず、速やかな判断と利用児を一番に考えた支援を心がけてまいります。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			記録記入時等に本日あったことを共有している。伝達ノートを活用し、打合せに不在の職員にも情報共有できるよう努めています。	小さな事でも共有し、漏れが無いよう日誌や伝達ノートを活用しています。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			利用者別に支援記録を取ることで、日々の支援の改善や個別支援計画作成につなげています。記録は、漏れが無いよう当日記載に努めています。	検証したり改善につなげることは、記録者や支援者よりミーティングや伝達ノートで共有できるように努め、ヒヤリハットは、現場の検証と最終的な対応を決定し支援してまいります。
	18 定期的モニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			新規の子どもは1~3ヶ月、それ以外の子どもは各自状況に応じて半年に1回必ずモニタリングを行い、個別支援計画の見直しを行っています。	計画の支援期間内であっても必要に応じて見直しを行ってまいります。
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○			定期会議にて活動の振り返りと予定を確認し、偏りが無いよう留意しています。		

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機関 や保護者との 連携	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者 会議にその子どもの状況に精通した最もふ さわしい者が参画している	○			主に児童発達支援管理責任者が参画してい ますが、必要に応じて現場の職員も参画し ます。	
	21 学校との情報共有(年間計画・行事予定等 の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連 絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の 連絡)を適切に行っている	○			学校への送迎時に子どもの様子を確認し たり、保護者を通じて情報交換をしています。	
	22 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる 場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整え ている		○			医療的ケアが必要な子どもは現在受け入れ できていません。
	23 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認 定こども園、児童発達支援事業所等との間 で情報共有と相互理解に努めている	○			保護者から引継ぎ資料を提供してもらうこと で、情報共有を図っています。	
	24 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業 所から障害福祉サービス事業所等へ移行 する場合、それまでの支援内容等の情報を 提供する等している	○			移行支援のため担当者会議に参画し、情報提 供を行っています。	
	25 児童発達支援センターや発達障害者支援 センター等の専門機関と連携し、助言や研 修を受けている			○		今年度は利用できませんでしたが、次年度は ぜひ専門機関と連携を図り、助言や研修を受 けていきたいです。
	26 放課後児童クラブや児童館との交流や、障 がいのない子どもと活動する機会がある			○	町立図書館での読み聞かせイベントや公園で の遊び時間等を通して交流する機会があり ます。	地元の学童保育との交流機会を設けることを 検討してまいります。
	27 (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加 している	○			津幡町自立支援協議会子ども部会に参加し相 互協力する関係作りに努めています。	
	28 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合 い、子どもの発達の状況や課題について共 通理解を持っている	○			送迎や必要に応じて連絡帳等を通して共通理 解を図れるようにしています。また、年2回面 談を通して子どもの成長の確認など行って います。	
29 保護者の対応力の向上を図る観点から、保 護者に対してペアレント・トレーニング等の 支援を行っている			○		今後、専門的な視点からご家族をサポート できることを検討してまいります。	
保護者への説明 責任等	30 運営規程、支援の内容、利用者負担等につ いて丁寧な説明を行っている	○			契約時に児童発達支援管理責任者より説明 をおこない、変更があるときは文書及び面談 時に説明を行っています。	
	31 保護者からの子育ての悩み等に対する相 談に適切に応じ、必要な助言と支援を行 っている	○				適宜、面談や訪問など通じて助言や相談に 対応してまいります。
	32 父母の会の活動を支援したり、保護者会 等を開催する等により、保護者同士の連 携を支援している			○	新型コロナウイルス感染症拡大防止対応の ため今年度は見合わせました。	新型コロナウイルス感染症拡大防止対応の ため今年度は開催できませんでしたが、今 後はコロナ禍に配慮した新しい開催方法を 検討してまいります。
	33 子どもや保護者からの苦情について、対 応の体制を整備するとともに、子どもや 保護者に周知し、苦情があった場合に迅速 かつ適切に対応している	○			各種相談や申し入れについて、窓口や委員 会等を設け、対応の体制を整えておりま す。また、迅速かつ丁寧な対応を心がけて います。	
	34 定期的に会報等を発行し、活動概要や行 事予定、連絡体制等の情報を子どもや保 護者に対して発信している	○			法人の広報誌や事業所からの通信を発行し 、保護者の方が知りたい情報や子供の様 子、事業所が伝えたいことがわかりやす く伝わるよう努めています。	
	35 個人情報に十分注意している	○			日頃より個人情報保護に対する意識を高 め、職員に対しチェックシートを用いて定 期的に働きかけを実施しています。	
	36 障がいのある子どもや保護者との意思の 疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			個人の障害特性に合わせて写真や絵を使 用したり、文字を平仮名にしたリビをふ ったり等分かりやすく伝えるようにしてい ます。	
	37 事業所の行事に地域住民を招待する等 地域に開かれた事業運営を図っている			○	コロナ禍だったが、地域ボランティアを お願いし、ピアノ演奏や紙芝居等の会を 行った。	
非常時 等の対応	38 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、 感染症対応マニュアルを策定し、職員や 保護者に周知している	○			法人内で各種マニュアルを整備し全事業 所職員間で周知しています。災害時引き 渡しや安否確認システムを導入し、保護 者にも周知していただけるよう働きかけ ています。	保護者までマニュアルの周知はできて いないため、面談等でお伝えしたり、 災害時緊急引き渡し照合票に変更が ないか、確認してまいります。
	39 非常災害の発生に備え、定期的に避難、 救出その他必要な訓練を行っている	○			毎月防災教育を設定し、災害について 学んだり避難訓練を実施したりしてい ます。	職員の災害時訓練に保護者も参加 いただき、安否確認システム(一斉 メール)訓練を続けてまいります。
	40 虐待を防止するため、職員の研修機会を 確保する等、適切な対応をしている	○			オンラインで開催された石川県主催の 虐待防止・権利擁護研修を全員が受講 しています。	

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
非常時等の 対応	41 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○			「身体拘束を行わない」を前提に支援の向上に努め、職員は毎月、チェックシート記載し意識を高めています。	法人内に委員会が設置され、身体拘束にあたる支援ではないか自己チェックできるシステムを設けています。必要な場合においては計画に記載してまいります。
	42 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			保護者を通じてアレルギーの有無を確認を行い、対応が必要な場合は医師の指示書に基づく対応を致します。	
	43 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			法人内に事故対策委員会を設け、ヒヤリハットの事例を基に会議やミーティング等で共有しています。	ヒヤリハットについて、多くの事例を共有し対応できるよう、目に留まる場所に事例集を設置し、意識を高めてまいります。